

会議録（要旨）

【開催概要】

会 議 名 称	第14回泉大津市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和元年 10 月 28 日（月） 10：00～11：50
開 催 場 所	泉大津市役所 3階 大会議室
出 席 委 員 (名簿順表記)	<ul style="list-style-type: none"> ・長瀬委員（会長）・久委員（副会長）・川西委員・村田委員 ・大橋委員・萩上委員・伊藤委員・藤本委員・能勢山委員 ・平委員・秦委員・納谷委員 <p style="text-align: right;">（計 12 名）</p>
欠 席 委 員	・内藤委員・田中(浩)委員・田中(桃)委員
	<p>川口健康福祉部長、丸山教育部長、藤原健康こども政策統括監 堀田子育て応援課長、里見こども育成課長、柏こども育成課長補佐 内田教育政策課長、濱辺スポーツ青少年課長、花見指導課参事 寒福祉政策課長、深澤障がい福祉課長 子育て応援課：谷本、竹村、永本、青山</p>
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 案件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「第二期いずみおおつ子ども未来プラン」ニーズ量の推計結果と目標量の設定について (2) 第二期いずみおおつ子ども未来プラン（骨子案）について (3) その他 3. 閉会
配 付 資 料	<p>【資料1】「第二期いずみおおつ子ども未来プラン」ニーズ量の推計結果と目標量の設定について</p> <p>【資料2】第二期いずみおおつ子ども未来プラン（骨子案）</p>
公 開 / 非 公 開	公開
傍 聴 者	0人
その他の必要な事項	なし

【議事要旨】

	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none">・会議成立要件の確認（委員 15 名中 12 名が出席のため成立）
	<p>2. 案件</p> <p>(1) 「第二期いずみおおつ子ども未来プラン」ニーズ量の推計結果と目標量の設定について</p>
事務局	●資料 1 「第二期いずみおおつ子ども未来プラン」ニーズ量の推計結果と目標量の設定について説明。
会長	◇案件 1 について質問や意見等ありませんか。
委員	◇12 ページの地域子育て支援拠点事業は、対象年齢が 0～3 歳になっているが、5 歳までの就学前児童までが対象になっている。しかし、実際は 3 歳以上の方については、ほとんどがどこかの園所に行かれています。量の見込みの対象は 0～2 歳が対象ということで大丈夫かと思う。
会長	◇実際には対象年齢は 5 歳まで可能ということですね。見込みの算出としては、0～2 歳を中心に可能ということでよろしいでしょうか。
副会長	◇確認をさせていただきたい。ニーズに対して準備されている量に余裕があるということですが、いわゆる人口ビジョン（総合戦略）では、子育て期の方々を市に呼び込もうという戦略を立てている。そのあたりで、少し多めにカウントしたとしてもこの余裕量を与えて大丈夫という判断でいいのか。
事務局	●人口の推移的に増えたとしても、この確保の人数であれば問題ないであろうというところも見ている。
委員	◇養育支援訪問事業について、内容がよくわからないのでお聞きしたい。
事務局	●養育支援訪問事業は、表にサービスとして出ていないのでご存じない方が多いと思う。子育て応援課で母子手帳を発行し、妊婦さんと面接を行っているあたりから、支援が必要になりそうな家庭や出産されてから子育てに悩んでいる家庭を母子保健の乳児検診や検診の相談の中でも保健師等が把握することがある。その方々に対して専門職が定期的な形でお話をうかがうという事業になる。妊娠期から主に 1 歳（乳児）の方々に多く訪問させていただく

	<p>事業で、専門職に加えて今年度からは子育ての経験者の方がお話を聞いていただくというのも一つ加えて訪問事業を2つ行っている。</p>
会長	<p>◇この支援というのは、妊娠期に妊産婦そのものに不安があるという母親の側と出生後お子さんに支援が必要な両面でしょうか。</p>
事務局	<p>●両方になります。生まれる前から把握させていただいている、たとえば若年の妊婦さん、双子や三つ子とわかっている方々については事前に相談を行っていて、生まれてからの悩みにも対応させていただいている。</p>
副会長	<p>◇細かい話ですが1ページの算出手順のところ、もし最終的に計画に載るとすれば、今のところという潜在家庭類型の割合と潜在家庭類型別の児童数をイコールでつないでいるが、イコールというのは上と下が等しいという意味なので、これは矢印で、これで計算してそれに利用意向を掛けて量の見込みを計算している、というように、理解していただくにはイコールじゃなくて下矢印とか少し工夫していただいたほうがいいのではないかと思います。</p>
会長	<p>◇そこは表記について検討させていただくということによろしいでしょうか。見ていただいたときに、わかりやすい形にということによろしいでしょうか。</p> <p>一旦案件1のほうは質問等受けさせていただいたので、進めさせていただいて、またお気づきになられたらいつでもご質問いただいたらと思います。</p> <p>(2) 第二期いずみおおつ子ども未来プラン（骨子案）について</p>
会長	<p>◇では、案件2の第二期いずみおおつ子ども未来プラン骨子案を事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>●資料2 第二期いずみおおつ子ども未来プラン（骨子案）について説明。</p>
会長	<p>◇案件2についてご質問や意見はありませんでしょうか。</p>
副会長	<p>◇細かい話の前に少し大きなお話をさせていただこうと思う。</p> <p>世の中が大きく変わっていく中で、いろいろなライフスタイルというのが徐々に出てきている。全体をお聞きしていて何か昔ながらのライフスタイルが多いという気がしている。まだまだ数としては少ないが新しい生き方、新しい働き方、新しい子育てのしかた、そういうものをもっと応援するような施策もいくつかあればいいなと思った。</p>

大きな話になるが、フランスなんか典型的ですが、結婚をせずに子どもを産むいわゆる婚外子の割合が高いほど出生率が上がってくるというのは、フランスに限らず世界的な傾向です。それはなぜそうなるかという、ひとり親であろうと二人親であろうと社会がちゃんと子育てを支援してくれるという仕組みができあがっているからこそ、シングルペアレンツの生き方を選択できるようになったというのがフランスの状況だと思う。そこまで行きなさいというのは難しいと思うが、困ってらっしゃる方を特別扱いするのではなく、いろいろな生き方、いろいろな暮らし方が選択できるように社会全体がなっていくと、もっと多様な生き方、多様な子育てのしかたというのできるのではないかと思っている。

ここからは具体的な話ですが、生駒市は、子育て世代のテレワーク支援というのを、まち・ひと・しごと総合戦略の中で取り入れている。つまり、子どもを預けて働きに行くだけではなく、自分の家で子どもを育てながら仕事ができる、ひとつの方策として「テレワーク」つまりインターネットを通じて仕事を受注して、それでお金を稼いでいくという働き方があります。そういうものをきちんと位置付けて、テレワークセンターなんかを位置付けて、在宅で仕事をしながら子育てもできるという、そういうライフスタイルが選択できるように応援をしてくださっている。

預けて働きに行くだけでなく、自分の家の中で仕事をしながら子育てができるような環境を産業支援あるいは就業支援でやっていただけるかというのを、少しでもメニューの中に取り込んでいただければ、こういうことが可能になっていくのではないかと思う。こんな働き方もあるよ、こういう働き方をされているかたが泉大津でも何人かいるよという情報がきちんとお伝えできれば、私もそういう働き方してみたいというようになっていくと思う。さまざまな子育て世代の暮らし方や働き方とかそういうユニークな方々をどんどん紹介するような、そういう情報発信なんかも重ねてやっていただくと、潜在ニーズというのがもっと出てくるんじゃないかと思う。

さらに言えばこれからの子どもたちは、今の働き方とは違う働き方になるということを文部科学省も想定されて、学習指導要領を来年度から大きく変えていきますよね。

そういうものを社会全体で共有しておかないといけない。今までのライフスタイルではない子どもたちの未来の働き方、暮らし方というものを支えるような学習指導要領の改訂が行われているわけです。

その中で社会に開かれた教育課程、教育カリキュラムとか教育内容を社会と共有していきましょうというのが今回の学習指導要領の改訂で非常に大きな柱になっていると思う。

そういうものが、さらっと計画を読ましていただくと、あまり表に出てきていない。おそらくこれからの子どもたちというのは変化の激しい社会の中で生きていく、それをどう教育面でサポートするかっていうのが、今回の学習

	<p>指導要領の改訂の非常に大きな目玉なんです。</p> <p>そのあたりも計画全体を通して弱いなという気がしている。そういう意味ですべてに渡って思うのが、従来型のライフスタイルだけではなくて、新しいライフスタイルの芽吹きみたいなものをどう成長していけるのか、そのことによっていろいろな生き方、働き方が選べるような泉大津市の社会環境を地域の方々を含めて一緒に作るようなメニューがもう少しあってもいいのかなと思いました。</p> <p>すでにやっているところがあると思う。新たに立ち上げなくても。そういうところのメニューを少しずつ盛り込んでいただければより充実するのではないかなと思う。</p> <p>根本的な指摘ですが、考えていただければと思う。</p>
事務局	<p>●ありがとうございます。前回の会議でも先生からご指摘をうけておまして、そういったエッセンスをどのように盛り込んでいくかというのが事務局としても悩みどころで、施策にどのようにつなげていくというところで書ききれなかった。意識はしているが施策につなげていくところで具体的なことがどこまで書けるのかというところに躊躇した部分があった。今一度、他部署とも話をし、そういったところの新しいメニューがないかについては、策定までには探っていけたらと思っている。</p>
副会長	<p>◇全面的にということではなく、そういうものを感じられる書きぶり一つでも二つでも目に付けばいいのということ、たくさん書きなさいということではなく一つでも二つでも何か、なるほどこういうことを考えてらっしゃるのかというのわかるような書きぶりが少しあっただけでもいいのかなと思う。</p> <p>さらに言えば、総合戦略のほうも今見直しの段階に入っている。総合戦略はそういうものをどんどん入れていただいて、それを受けてこちらの計画に反映できるというのが一番ストーリーとしてはうまいと思う。総合戦略に新しい生き方みたいなものが位置付けられないと、なかなかこちらだけで突っ走るというのは難しいと思う。他の部門の政策部門とうまく情報共有ができたらいいのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>◇例えば、施策体系のところの「働きながら子育てする人の支援」が今回重点なので、働き方の多様性というか、さまざまな形で働く人の支援、預けて働く、在宅で働く等、いろいろな形で考えていただくと、基本骨子が変わるわけではなくて、ご指摘していただいたことが入るのではないかなと思いますので、今回重点施策にもしていただいているので、働きながらというところの幅を持たしていただいたりすることも可能かなと思います。ご相談いただいてというふうに思います。</p>

委員	◇細かい話になりますが、以前、泉大津は緊急一時預かりをしているのを聞いたことがあるが、その辺の話が資料に出てこないのですが、現状とか実態とか教えていただけたらと思う。いい事業だと思っていたが、いかがでしょうか。
事務局	●緊急一時預かりは、保護者さんが病気や出産のときにお預かりする事業です。事業としては一時預かり事業と振分けてはいなかったのではないかと思います。一時預かり事業は、理由がなくても自由にお使いいただける事業です。事業としてはこれまで通り位置づけており、ここに反映していないか施策の展開のところにそれが抜けておるようでしたら加えたいと思います。
委員	◇人口が減少して子どもの数が減っていく中で、今の必要量を確保していくというありがたい言葉を聞いておったのですが、15ページの利用数について、令和元年度、待機児童が非常に多いというのは、保護者（利用者）に聞いているが、定員からいくと72.1%というところ。それとH28、H29年度は、定員が他の年度と違っていたのでしょうか。1歳は60名、65名というのは、非常に大きい数字がでてきているかなと思う。数字は4/1現在だが、幼稚園については5/1現在となっているのは、何か理由があるのか。教えていただけたらと思う。
会長	◇幼稚園は、5月1日起算日で文部科学省報告となっているんですよね。4月から入園しているが、5月1日ですよ。保育所は4月1日の年度初めからですよ。その形式上の違いかと思う。さきほどの人数のところはいかがでしょうか
事務局	●幼稚園の件は会長のご説明の通りです。保育所のH28、H29年の60名、65名はすごく多いからということですか。
委員	◇4月1日現在で定員がもっと多かったですか。
事務局	●定員については、H28、29では変わりはないと思うんですけど。受け入れはたくさんできたということになる。
委員	◇定員が40名としたら多すぎる数かなと思う。
事務局	●そこは弾力化とあわせて実施をさせていただいたのかなと思う。特に戎保育所などは1歳児もたくさん受け入れられるように定員の確保をしているので、その中で個々の園で弾力化もあわせてこれだけの受け入れをできたのか

	<p>など思う。</p>
委員	<p>◇それともうひとつ。幼稚園のほうが計 25.1%となっている。それについても一言コメントを頂けたらと思う。</p>
事務局	<p>●幼稚園については年々減っていく傾向と、認定こども園の1号に移行し、幼稚園の1号としては減少している。その中でのパーセンテージと認識しております。</p>
委員	<p>◇45 ページ、視点1の(3)学校教育の充実と書いていただいて非常にうれしく思っている。世界の常識を申しますと少人数学級の編成ということで、1～2年生に関しましては国・府の予算によって35人学級を確保できている。ところが、3年生になると40人学級になる。うちの学校では2年生が来年3年生になると、43～45人の1クラスになるという予測がございまして、これはうちの学校だけの話ではございません。やはり大きく指導要領も改訂されて内容が変わり、職員も研修を積み重ねてはいるんですが、理想的にはやはり、少人数学級の編成ということになってくる。それで高石市は、市の予算によりまして、市独自の少人数編成をしているとうかがっている。本市におきましては何かお考えと議会の動きも含めまして、これからの予測も含めてお答えいただけたらと思う。</p>
事務局	<p>●少人数に関しては課題でありまして、40人学級の編成をしても人数が超えている、カウントの都合でそうなっているのですが、そういう問題もございまして、実際に少人数指導を行ってはいるんですが、全学校全学級には及んでおりません。それは課題であることをしっかり認識しております。現在の少人数授業をどういうふうに継続していくのかということを含めて検討している。実際来年度以降になるので、府の考えもございまして、今後考えていく予定をしている。今現在ではそこまでしかお答えはできない。市で予算は難しいと思う。府の少人数授業を上手に活用しながらという話になる。</p>
副会長	<p>◇来年度から学習指導要領が大きく変わる中で教え方そのものが変わっていく。いわゆるアクティブラーニングを重視しなさいということになってきたときに、少人数でないと機能していかないと思う。ただし、予算面で厳しいということであれば、もっと市民の方々にご協力いただくようなそういう体制をとれないかなと思う。</p> <p>具体的には若い方々でファシリテーションできる方、ワークショップをすでに自分でまわせる方が一定数いると思うので、そういう方々にうまくフォローしていただいて先生方の負担を減らしていくような、うまくやれば市のなかでも組み立てられるのではないかなと思う。そこらへんのサポート体制をと</p>

	<p>っていただくのがひとつかなと思う。</p> <p>もうひとつ違う観点で。具体的には 62 ページのところ「次代の地域リーダーの養成」と一番上に書いている。これは従来やっているジュニア・リーダー養成講座だと思う。岸和田市でジュニア・リーダーの養成講座をリーダーさんそのものが企画運営されているということで応援してくださいという相談をいただいた。ストレートに言わしていただくと、昔ながらの養成講座の内容では、今の若い方々に興味や関心を持っていただけない。やはり時代が変わっているので、講座の内容あるいはジュニア・リーダーの位置付け方も新しく変えていただく必要があると岸和田市を見ていて思った。</p> <p>子ども会活動、スポーツ少年団も同じだと思う。やはり時代が変わってくると、30 年前 40 年前と同じことをやっても、たぶん受け入れてもらえないと思う。そういう新しいやり方をスポーツ青少年課が中心に一緒に開発していくというようなことも必要です。次のレベルの話だと思うが、何々を行いますと書いているだけでは内容がわからない。本当はもっとこのあたりをリセットして、新しいやり方をどんどん取り込んで開発していくことも必要です。そのあたりをどちらの方向にいくのだろうかこの文章では見えません。そこは、次のステップで結構ですので、ぜひとも、古くなっているやり方はどんどん変えていく、そういうアドバイスを市のほうもやっていただければうれしいと思う。</p>
会長	◇ぜひまたお考えいただいて、今回難しければ今後検討してください。
委員	<p>◇さきほどからの教育の流れで、事務局からカウントの問題のお伝えがあった。H24 年に法改正が行われており、府の教育庁にも確認したところ、柔軟に対応しているというふうになっている。そうすると市の予算が必要になってくるのではないかと感じている。先生方の日々の努力は子どもを通じてすごくありがたく思っている。先生方が大変そうで、それが子どもたちに伝わっている。学習指導要領が変わって、なお先生方が大変になるのが目に見える。是非そういうことも市の予算としてお願いしたいと思っている。私も軽度の発達障害の二人の親ですが、自閉症スペクトラム支援士の資格を取得している。知人が富山に住んでいて、富山では教育委員会の研修を経て知識のある保護者が学校の教室内で担当児のサポートをする。モチベーションをあげるようなグッズ作りや、お子さんが避難したいというときには先生にお伝えして連れていくなどのボランティアを 10 年前から行っておられる。そういった具体的にボランティアとか、子どもたちのために何かしたいと思う親御さん、私も含めて、ASD の子どもを持つ保護者さんのお役に立てればと思っている方もたくさんおられると思う。</p> <p>私も勉強会等を主催しているが、皆さんそう思っておられる。先生方の手伝いになることがあるんだったら是非思っているので検討いただけたらあ</p>

<p>会長</p>	<p>りがたいと思う。</p> <p>◇たいへん積極的な形での提案をいただいたので、ぜひそれがまた可能になるような仕組みも含めて考えていっていただいて、この就学前教育・保育に加えて小学校教育の充実も含めて考えていただけたらと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>◇時代が変わってきているのを実感している。広場の相談でもマイノリティに対することも出てきている。就学前からマイノリティに対する配慮があるような子どもさんがちらほら見られるような時代になってきたのかなというのがある。多様性を認めていくような関係性を作れたらと思っている。就学前から相談があるので、46ページの「教育・保育における子どもの人権に関する意識啓発」のところで、教育だけではなく保育も携わってくるのかなと思う。担当部署が子育て応援課・指導課・人権くらしの相談課となっているが、こども育成課も入っていただき、みんなで子どもを見守っていただけたらと感じる。</p> <p>保育士も教諭もみなさん意識改革が必要なのかなと思う。47ページの「保育所・幼稚園・認定こども園の人材育成」のところで十分な研修をしていただいていると思う。園内研修を実施していただいて先生方はよく学ばれていると思っている。保育所・幼稚園・認定こども園で子育て支援は重要となっているのではないかと考えている。保護者さんと毎日先生方が接する中で、担任の先生が難しさを感じることも多いのかなと感じている。そういった中で子育て支援に関する研修も積極的に取り入れていただけたらなと思う。今までの研修にプラスしてということではなく、工夫をして負担にならないようなかたちでお願いしたいと思う。</p> <p>それと書き方のことになるが、55ページに利用者支援事業というのがある。市内での特定型母子保健型に加え公立認定こども園3園で基本型をしていると書いてある。これは、どこの園でも認定こども園はしているが、かみじょう認定こども園の中に地域子育て支援センターがあり、地域子育て支援センターにおいても利用者支援事業をしているので、どういう書き方がいいのかわからないが検討していただけたらと思う。</p> <p>最後に、65ページの「防災・災害対策の充実」については、避難所となる小中学校や保育所・幼稚園などの防災対策の充実に努めますとあるが、具体的にされていることはなんですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>●子どもの人権に関する啓発のところで、担当部署をこども育成課もということ、これは現在も関わっているの、担当部署に入れていく方向で進めたいと思う。次の子育て支援に関する保育士への研修については、そういったことも今やっている研修の中でうまく入れていけるように考えていきたいと思っている。利用者支援事業の書きぶりについては考えたい。</p>

	<p>防災教育については、各学校に計画になる元のものがあり、それに基づいて学校で避難訓練などを実施している。子どもたちに対しては、総合的な学習の時間などを利用して、地域によって災害があったときの対応のやり方が違うので、地域や学校に応じた形で避難できるように教育を進めている。現在は大学の先生に指導に入っていて学習を進めている。特に沿岸部の学校では力を入れてやらせていただいている。</p>
<p>委員</p>	<p>◇いろいろな避難訓練などをしていただきありがたいと思っている。千葉県の方で園児さんが孤立してしまい、なかなか助けられなかったという事例を見て備蓄も大事だと感じた。備蓄は予算的にも難しいことなのかと思うが、例えば保護者さんをお願いして備蓄のクッキーなどを1缶買っていただいて備蓄させていただくとか、予算をつけるのが最初だと思うけれど、それができないのであればできるまでの間、保護者さんをお願いして個人で持っていていただくということは可能なのではと思う。</p> <p>和泉市の民間の園の方で取り組みをされていて、備蓄のクッキーというのは5年くらい賞味期限があるので3年に1回くらい買っていただき、持って帰っていただき家で1年くらい保存食として置いていただくという形をとっているそうです。そういう工夫があってもいいのかなと思う。ご検討いただけたらと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>◇予算化ももちろん検討していただき、ご家庭でご協力いただける方法も含めて今後ご検討いただいて、いざというときに地域の方も子どもさんも一番いい状態で過ごすことができるような検討を進めていただければと思う。</p>
<p>副会長</p>	<p>◇今の件で少し気になりました。何かというと東日本大震災でご承知のかたも多いかと思うが、釜石の奇跡とって、釜石の子どもたちというのは自分で考えて避難行動を起こしたわけです。それはもう徹底的に釜石市の教育委員会が子どもたちにいろいろな情報を自分で判断して動けるような教育をずっとしてきたがゆえに、誰一人として子どもが亡くならなかったという奇跡が起こったわけです。さきほどからアクティブラーニングとか新しい教育という話をさせていただいているが、これが本当の意味での生きる力の養成ですよ。だから防災教育として取り入れるのではなく、普段から自分で情報を集め臨機応変に考える力を身につけておけば、災害の時にも役に立つということです。別々に取り組まれるのではなく、ちゃんと連携してストーリーにしてほしいなと思う。今ひとつひとつ書いておりますが、これとこれがこう結びつくところなるというような、ストーリーも大切にしていきたいというふうに思う。</p>

会長	<p>◇普段の学習からそれが積み重なっていくようにということで、もちろん特化した地域に合わせた防災教育が必要かと思うが、普段から考えて判断する行動するという、力をつけていくということとつなげていただくとよいと思いますので、それも意識をしていただいたらと思う。</p>
委員	<p>◇45 ページの基本理念の3番目に「子育てに優しい地域社会を育む」とあり、この一言は我々が期待されているのだと本当に思っている。我々は地域のおせっかいなおばちゃんとして子どもたちに接してきました。幼稚園はもとより小学校低学年の子どもさんの通園通学時、また帰るときの声かけや見守り等をやらせていただいている。幼稚園のいろいろな事業にも参加をしている。防災訓練の逃げるときは、地域のおばちゃんということでえびすのほうに来てくれないかといわれて我々が行き、子どもたちと一緒に「こうやって逃げんねん」というのをやっている。少しでも泉大津市のお役に立てればということをやっている。</p> <p>それと、子ども食堂も我々がやらせていただいているが、地域で一生懸命ボランティアをしている人はほんのひとかたまりです。いろいろなところからボランティアしてくれないかとお願ひされる。もう体がもたないと思うくらい、いろいろなところからお願ひが来るんですね。例えば、我々はハンドベルというのをやっていて、子どもさんの幼稚園に行っている。クリスマスソングの演奏です。こういったものをする絶対と言っていいくらい、ただで来てくれないかといろいろなところから声がかかる。ボランティアというのはどこまでがボランティアなのかと考えたりすることがある。身銭を切らないといけないときもある。ただ、子どもたちの笑顔がうれしいから毎年行っているという現実がある。</p> <p>我々としてはこのように書いていただいたら、うれしいからもっと頑張るぞと思う。基本理念に「地域の共生」というのはものすごくありがたい。我々がやっていることは決して無駄ではなかったと、こうやって見ていただけということで力をいただきました。今日は昼から会議があるので是非このことを報告させていただきたいと思う。またこういったことで力をいただけるかなと思っている。</p>
会長	<p>◇このままでも結構ですが、45 ページの子どもの育ち自立、そして家庭の支援、そして地域社会の育成、この3項目はこれでいいかと思うが、子どもの育ちと自立のところで児童虐待予防の推進が重点施策に入っているが、これはもちろん虐待がないことで子どもの育ちにつながるなのでその通りなのだが、一方では子育て家庭の支援でもあるので、非常に区別のしにくいものだろうと思う。虐待は子どもがするわけではなく受ける側になるので、人権ということでいえば、さきほどあった子ども自身に人権感覚をきちんと育てるという面、いじめを含めて、子ども自身に人権や権利、自分の意識をきちんと</p>

	<p>と育てる面と虐待を防止するという面が一緒に入っているものですから、またがってくるなと思っている。</p> <p>児童虐待予防の推進は、ここを中心にすべての子育て家庭の応援にもなるし、当然地域での通告も含めてのバックアップもいるので、位置づけはここに入っているもいいが、推進の際には虐待に走ってしまう家庭にならないような予防の部分で、地域で人をただ通告して終わりではなく、相談が受けられるような地域社会になっていくなど、位置づけはここでやむを得ないと思うが、当然全体にかかわるものとして考えていただけたらと思う。</p> <p>幅が広いので両面が入っているかなと思う。今から切り分けは難しいかもしれないが、児童虐待予防の推進は、推進によって結果として子どもの育ちと自立につながるが、実際の施策としては家庭をどうバックアップしていくか、地域で見守っていくかという両面になるかと思うので、そのような理解で進めていただこうかと思っている。よい項目と思うが、きれいに項目分けをするとまたがってはくるので、そういうものとしてトータルで考えていくということでご理解いただけたらというふうに思います。</p>
事務局	<p>●人権のところは検討します。</p>
委員	<p>◇児童養護施設乳児院というと虐待をうけた子どもたちが 80%近くの入所となっている。特に乳幼児への虐待が多いという現状がある。虐待をゼロにするという考え方で取り組んだら、啓蒙活動もして虐待をなくするという予防の動きは通報につながるので、件数として減らすことはできませんよね。総合的な取組の中で虐待のない世界を実現していくというのは行政としては大事なことだと思うが、通報があることによって救われる子どもがいる。乳児とか幼児が保護されて、その後支援を繰り返しながら親子で返していくということを目標に取り組んでいる。減らすという感覚、虐待はないほうがいいに決まっているが、どうしても東京とか千葉とかで虐待死の悲惨な事件が多く出てきている。さきほど会長が言われたことは大事な視点ではないかなと思う。</p>
会長	<p>◇大切な項目なので必ず児童虐待予防の推進は重点施策にはしていただくが、そのときにどうしても啓蒙に関連してくる子どもたち自身の人権感覚の問題、それから保護者が虐待に進んでしまう状況への理解と援助、そしてそれを地域でどう見守り、また関係回復のためにバックアップしていくなど、多岐にわたるかと思う。書き方とか課との連携なども相談して、地域の児童養護施設を含めての関連機関との連携もさらに深めていくことで救われる子どもたちがたくさん出てくると思うのでよろしくお願いします。</p>
委員	<p>◇数字のことでお尋ねしたい。19 ページの小中学校の状況の中の一つ下の部分</p>

事務局	<p>のいじめ・不登校の状況で、まず「認知件数」はどのような基準で認知となっているのか、中学ではクラブでの案件も入っているのかというのと、もう一点は、H27年度、H28年度、H29年度は倍ぐらい増えていっているがH29年度からH30年度は若干減っている。小学校のほうは若干減っているが中学校のほうは増加傾向のままですが、このあいだに何があったのかお尋ねしたい。</p> <p>●認知のやり方は、子どもあるいは保護者の申し出、各クラスでのアンケート、第三者の教員とか、大人への申告によったもの全部含まれている。中学校でのクラブ活動なども入っている。</p> <p>増減については、実際は子どもの数は少しずつ減っているが認知件数が増えているのは、いじめというのはどういうものかという定義があり、何が起こったというものではなく、いじめられたと感じたその子の申し出によるものが大きい。昔はカウントしなかったものもすべて数えましょと、傍から見てこれはいじめかな、それともただのからかいか、本人は笑っているけれども、どういう認識かというあたりもすべて含めてカウントしているので増えている。中身を問うと深刻なものはそんなに多くない。数字上こういうふうに見えているというのが現状です。</p>
委員	<p>◇48 ページの認定こども園の設置推進のところについて、前回か前々回かでは、公立の4つ目の認定こども園は今考えていないとお聞きしていたが、設置推進しますということはどういうことか。これからも4つ目はあるということでしょうか。</p>
事務局	<p>●就学前教育・保育施設として認定こども園は子どもにとっても保護者にとってもいい施設であるということ、また国が推奨していることを受けて、公立でということではなく市として認定こども園を推進していきたいということです。</p>
委員	<p>◇以前、泉大津市でも民営化というのがあった。南海かもめさん、2つ目がとれぞあ子ども園と、急に認定こども園に変わっていくという動きになったと思う。その中で今後も民営化という形を考えていくのかどうか、公立では認定こども園はないとお聞きしたが、民営化という形の認定こども園を進めていくということよろしいでしょうか。</p> <p>岸和田市では、公立の保育園に通っている保護者さんからの話で、11園の公立がすべてこれから民営化していくという話が入ったようです。泉大津ではそのへんを考えていき、今の計画として載っていくのでしょうか。</p>
事務局	<p>●計画として公立の民営化を具体的に載せていくことはないが、今後の子どもの数やニーズそういうところで、どういう形で施設を推進していくか、公は</p>

<p>会長</p>	<p>公の役割を果たしていきながら民間のお力も借りて認定こども園といういい施設を推進していきたいということをここでは述べている。それぞれの役割の中で子育て支援を充実していきたいと思う。</p> <p>◇表現としては設置の推進ですが具体策がすぐということではなく、ニーズや児童数にあわせてこども園化も含めての検討を考えていくという意味合いでしょうか。設置という形の計画があるわけではない。設置の推進となっているので、もしかするとどこかがこども園化されていくのかな、一体化ではなくても幼稚園がこども園とかに見える表現になっていますので、表現は事実にあった形で、必要なら検討していただけたらと思います。</p> <p>ありがとうございます。多岐にわたってご意見いただきましたので、理解や具体策が明らかになってきたかと思います。意見が出たようでしたらこの案件についての審議はこれで終わりにします。</p> <p>(3) その他</p>
<p>事務局</p>	<p>●今回の意見を踏まえて素案を修正し、12月にパブリックコメントを実施する。パブリックコメントを経て、次回会議は2月に開催予定である。</p> <p>3. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>